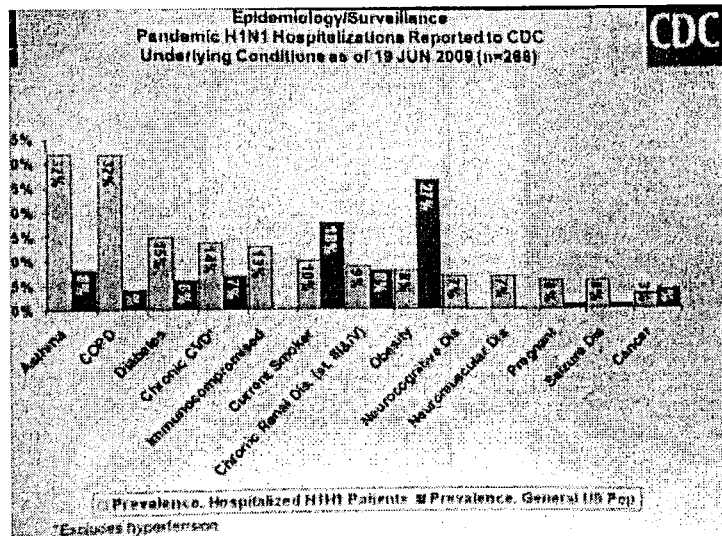


基礎疾患(状態)のある場合、重症化の傾向がある

米国



日本

Hospital surveillance as of 11 August 2009 – result (2)

Underlying diseases (partially overlapped)	Admitted # of cases from 5 to 11 August (Total)	Accumulated # of admitted cases as of 11 August (Total)
Pregnancy	0	1
COPD (e.g., asthma)	12	31
CHD	1	2
Metabolic diseases	1	2
Renal disease	1	2
Immune deficiency (e.g., steroid use)	1	3
Others	4	11

オーストラリア

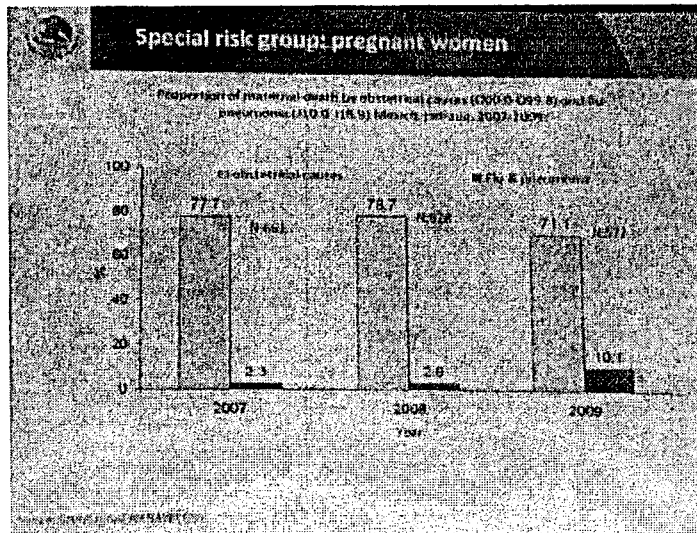
Snapshot of hospitalisations

- 55% female, 45% male
- Co-morbidities in 61%
 - Resp, diabetes, pregnancy, chronic cardiac, immunocompromised, obesity, renal
- 53% admitted within 48 hours of symptom onset

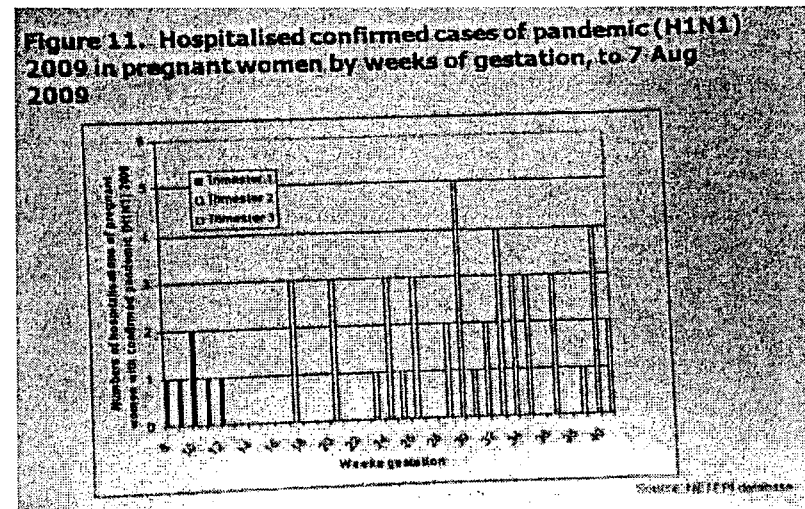
- ・慢性呼吸器疾患(喘息、COPDなど)
- ・心血管障害
- ・代謝疾患(糖尿病など)
- ・免疫不全状態
- ・腎疾患
- ・肥満
- 等

妊娠(特に第3期)は、入院・肺炎など重症化傾向がある

メキシコ



オーストラリア



新型インフルエンザワクチンに関するWHOの推奨

WHO recommendations on pandemic A(H1N1) 2009 vaccines

- All countries immunize health care workers as a first priority (1-2% of population)
- Stepwise approach may be considered to vaccinate particular groups and countries need to determine their order of priority based on country-specific conditions
 - Pregnant women (2% of the world population)
 - Those aged over 6 M with one of several chronic medical conditions (asthma and other chronic conditions)
 - Healthy young adults of >15 years and <=49 years:
 - Healthy children
 - Healthy adults >49 years and <65 years
 - Healthy adults >=65 years

平成 21 年 8 月 19 日

社団法人日本肝臓学会
理事長 井廻 道夫

日本肝臓学会に主に関連する疾患のうち次の設問についてそれぞれ回答します。

- ① 新型インフルエンザ感染により重症化しやすいため、新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれる基礎疾患を有する者の範囲や定義について

肝疾患とインフルエンザに関する文献は国内外共にほとんどないが、米国から肝硬変患者がインフルエンザ感染を契機に重症化した 3 例が報告されている（文献 1）。このような例は稀ではあるが、肝硬変患者ではインフルエンザワクチン接種が望ましい。

- ② ①の者に接種する場合の有効性と安全性について

20 例の進行した肝硬変ではインフルエンザワクチン接種による抗体産生がみられたのは患者の 75～85%と低いが、反応した患者の抗体価は十分高く、重篤な副作用はみられなかったとのイタリアからの報告がある（文献 2）。多数例での報告はないが、現時点ではインフルエンザワクチンは進行した肝硬変患者に接種しても問題ないと考える。

（文献 1）Andrea Duchini et al. Hepatic Decompensation in Patients With Cirrhosis During Infection With Influenza A. *Aech Intern Med.* 2000;160:113-115

（文献 2）Giovanni B. Gaeta et al. Immunogenicity and safety of an adjuvanted influenza vaccine in patients with decompensated cirrhosis. *Vaccine* 20 (2002)B33-B35

厚生労働省健康局 殿

平成21年8月27日(木)意見交換会にむけての日本透析医学会の主張

日本透析医学会 理事長 秋澤忠男

お求めのあった、「貴学会に主に関連する疾患のうち、1. 新型インフルエンザ感染により重症化しやすいため、新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれる基礎疾患を有する者の範囲や定義について、2. 上記の者に接種する場合の有効性と安全性」について、日本透析医学会を代表して、意見を申し上げます。

1. 「新型インフルエンザ感染により重症化しやすいため、新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれる基礎疾患を有する者の範囲や定義」

対象は「透析患者」と「その同居家族」と「透析従事者(医師・看護師・臨床工学技士・栄養士・検査技師・ケースワーカー・作業補助者・事務職など)」を希望します。

なお、対象者数は、透析患者数は282,622人(2008年末、日本透析医学会、資料1)、その同居家族数は一世帯当りの平均人員を2.67人(2005年)と見積もると472,000人、透析従事者は85,345名(2008年末、日本透析医学会 資料2)、計840,000人となる。

その理由は以下のとおり。

1) 本邦における新型インフルエンザによる死亡3例中2例が透析患者だったことから重篤化しやすいと推測されること(報道 資料3)。

2) CDCではワクチン対象を「Persons aged 25 through 64 years who have health conditions associated with higher risk of medical complications from influenza.」(<http://www.cdc.gov/h1n1flu/vaccination/acip.htm>)と記載されており、透析患者はこれに当たること(資料4)。

3) 万一感染時には、CDCのInterim Additional Guidance for Infection Control for Care of Patients with Confirmed, Probable, or Suspected Novel Influenza A (H1N1) Virus Infection in Outpatient Hemodialysis Settings

http://www.cdc.gov/h1n1flu/guidance/hemodialysis_centers.htm

によれば「患者は隔離透析(separate room)」での透析をするように記載されているが(資料5)、本邦では「separate room」を持つ透析施設はほとんど無いことから予防が

最重要であること。

4) 感染した透析患者は、自宅療養で外出を控えるのが基本だが、週3回透析のため通院しなければならないこと(資料6)。

なお、上記の他に、透析導入の近い重症の腎機能障害者、高度の腎機能障害と免疫抑制状態や他臓器の重度障害合併者、免疫抑制薬の使用が不可欠の腎臓移植患者、免疫抑制薬等で治療を受けている腎臓病患者などにも、新型インフルエンザワクチンを優先的に接種することが望まれることを申し添えます。

2. 「上記の者に接種する場合の有効性と安全性」

1) (季節性インフルエンザの知見であるが) ワクチン接種により、透析患者は安全で、十分な抗体価の上昇が得られる(資料7)

2) (季節性インフルエンザの知見であるが) ワクチン接種により、透析患者は生命予後の改善、入院率の低下が得られる(資料8 USRDSのデータ、表2 ワクチン接種による生命予後と入院の改善)

3) 接種率を高めるため、患者は「任意接種」ではなく、「定期接種」が集団防衛上望ましいこと、

3. その他

1). スタッフの接種は「患者のため」であり、個人負担の軽減処置が講じられる必要がある。

以上

資料8) David T. Gilbertson et al. Influenza vaccine delivery and effectiveness in end-stage renal disease. *Kidney International*, Vol63(2003), pp. 738-743